



サクサグループ

個人投資家様向け 米沢工場見学会レポート 2025

Yonezawa Factory Tour Report for Individual Investors 2025





個人投資家様向けサクサグループ工場見学会 in 米沢

馬淵磨理子さんとめぐる バスツアーを開催

サクサグループは、個人投資家の皆さまを米沢市へ招き、工場見学バスツアーを開催しました。経済アナリストの馬淵磨理子さんとともに、モノづくりの現場を体感していただく一日となりました。



馬淵 磨理子氏

Profile

経済アナリスト。京都大学公共政策大学院修士課程修了。一般社団法人日本金融経済研究所 代表理事、大阪公立大学 客員准教授。TV番組のレギュラー出演のほか、著書も多数。

バスツアー行程

- 9:30 米沢駅集合
- 10:00 ソアー工場見学
- 11:30 サクサテクノ工場見学
- 12:45 吉亭にて昼食
- 14:00 市役所訪問
- 14:30 馬淵さん講演会
- 15:15 上杉神社参拝
- 16:30 米沢駅にて解散

秋晴れの快晴に恵まれたツアー

サクサグループでは、株主の皆さまに事業への理解を深めていただくため、**株主優待制度の一環として工場見学会を企画・実施**しました。決算資料や数字だけでは伝えきれない、製品が生まれる現場の空気やそこで働く従業員の姿を、実際に感じていただきたいと思います。

今回のツアーでは、山形県の米沢に根ざす工場を訪れ、グループのモノづくりを支える技術や人、そして地域とのつながりに触れていただきました。サクサグループを知るだけでなく“感じる”機会、それが本ツアーの目的です。

世界に誇る技術力をソアー工場で見学

ツアーの最初に訪れたのは、株式会社ソアーの工場です。同社は有機ELディスプレイの**量産化を世界で初めて実現した技術**をはじめ、表示デバイスや電子機器の開発・製造を手がけてきました。その現場で語られていたのは、華々しい成果よりも、日々の改善を積み重ねてきた歩みです。社長の八巻雅敏は「特別なことをしてきたわけではなく、一つひとつ改善を続けてきただけ」と話します。

工場内を案内してくれた従業員からも、「品質は自分たちの使命」「ここで作ったものが、そのまま世の中に出ていく」という言葉が自然と聞かれ、そこに責任と誇りが感じられました。最先端の技術を支えているのは、モノづくりに真摯に向き合う姿勢なのです。



若い世代が活躍するサクサテクノ工場

続いてサクサテクノ株式会社の工場へ。通信機器を中心とした**製品の設計から製造、検査、出荷まで一貫して**担っています。現場を案内したのは、入社から数年という若い世代の従業員でした。「緊張しますが、自分の言葉で日々の



仕事を説明できるのがうれしいです」と話し、工程を紹介する姿からは現場を任されている充実感が伝わってきました。社長の矢萩優も、「人を育てることが結果として品質につながる」と話します。

若い力が着実に育ち、サクサテクノのモノづくりを支えていることが実感できる工場見学となりました。

Introduce

米沢ってどんなところ？

豊かな自然と歴史が息づく山形県南部の城下町 上杉氏ゆかりの城下町・米沢。人気戦国武将・前田慶次が晩年を過ごした地として、また9代目藩主・上杉鷹山の儉約、産業開発、人材育成による藩政改革が今も語り継がれます。



「Made in Yonezawa」のモノづくりを体感

企業版ふるさと納税を活用 米沢地域の活性化に貢献

工場見学ののち、一行は近代的な佇まいの米沢市役所を訪れました。ここで行われたのが、サクサグループによる**企業版ふるさと納税**を活用した寄付の目録贈呈です。

米沢市の近藤洋介市長はご挨拶のなかで、「サクサグループは米沢の産業を長年支えてきた大切な存在です」と述べられ、八幡原工業団地が整備された当初から企業活動を続け、**地域に根を張り、雇用や産業基盤を築いてきた歩み**にも触れてくださいました。また、製造業の集積により地域のモノづくりを支えてきた歴史にも触れられ、サクサグループの工場の存在そのも

のが市の産業を語る一部になっているとの有難い言葉をいただきました。モノづくりを通じて人材が育ち、地域の力になっていく。地域との歩みを改めて確認する機会となりました。



郷土料理と上杉神社も 楽しみいただきました

工場見学の合間には老舗料亭「吉亭」の昼食へ。参加者さまには、名物の米沢牛に舌鼓を打ちながら、同じテーブルに着いたサクサグループ役員らに見学の感想をお話いただくなど、和やかなひとときを過ごしていただきました。午後は上杉神社を参拝し米沢の歴史に触れました。ものづくりの現場に加え、土地の文化や風土も味わえる一日となりました。

馬淵さん講演会も行われました

日本経済のゆくえ～株式事情の見通し～

市役所では、馬淵さんによる講演会も行われました。講演では、トランプ関税をはじめとする米国経済の動きが、日本の株式市場にどのような影響を与えているのかを解説。世界経済の流れを俯瞰しながら、日経平均株価の見通しや投資を考える際の視点について、具体例を交えて語られました。また今回の工場見学について「実際に現場を見ることが理解が深まり、投資の見方も変わる」とお話しいただき、学びの多い時間となりました。



個人投資家様向け サクサグループ工場見学会

工場見学会を誌面で体験

ソアー工場、サクサテクノ工場での見学の様子を、写真とともに振り返ります。現場を歩き、説明に耳を傾けた一日の流れを誌面で追体験してください。

世界初の有機EL量産化を実現した高い技術力

ソアー工場

01 サクサ株式会社 代表・齋藤政利より ご挨拶



工場見学の冒頭では、サクサ株式会社代表・齋藤政利がビデオメッセージでご挨拶しました。「日々の改善の積み重ねこそが私たちの強みであり、ものづくりの力になる」と語り、現場への思いを参加者さまにお伝えしました。

02 株式会社ソアー 代表・八巻雅敏より ご挨拶とご紹介

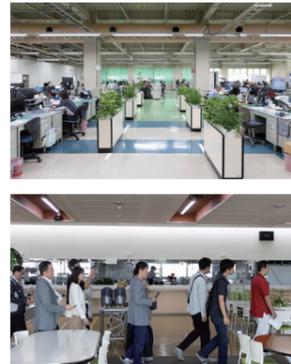
続いて、株式会社ソアー代表・八巻雅敏が工場の概要をご説明。世界初の技術に至るまでの歩みのほか、工場周辺の自然の豊かさについて、写真をお見せしながらご紹介しました。

03 最新製品の有機 ELディスプレイ に驚き

いよいよ工場見学がスタート。まず視認性やデザイン性に優れた有機ELディスプレイの最新製品をご紹介し、用途の広がりや間近で見学いただきました。

04 工場とオフィスが 同じフロアにある メリット

部署を越えた活発なやり取りのある社内の雰囲気を感じられます。



05 無駄のない導線で つながる生産エリア 作業管理も効率化

作業導線を考えたレイアウトで、効率的に精密機器の製造が行われています。



06 OLEDだけでなく いろんな製品を 手がける現場

有機ELに加え、医療や産業分野向けなど、多様な製品の開発・製造が行われているのもこの工場の強みです。



07 最後はホワイトルーム での蒸着・封止を見学 女性の活躍が光ります

ホワイトルームでは、有機ELの蒸着や封止といった重要工程が行われます。多くの検査項目を正確に見極める工程では、女性が中心となって品質を支えています。



Voice

参加者様の声

ツアーの最後に少しお話をうかがいました



米沢出身者が7~8割と聞いて、地元に着しているのだと。若い方も多く、これから伸びる会社だと思いました(60代・男性)



思ったより一つ一つ、人の手で作ってらっしゃるのだと、とても興味深く見学させていただきました(60代・男性) 若い方がすごく誇りを持って仕事をされていることが印象的でした(50代・女性)

高い品質管理・生産技術にこだわり一貫生産

サクサテクノ工場

01 サクサテクノ株式会社 代表・矢萩優より ご挨拶とご紹介



見学に先立ちサクサテクノ株式会社代表・矢萩優がご挨拶。米沢の地で長年モノづくりを続けてきた歴史、設計から製造、修理までを担う一貫生産の強みについて、写真パネルを用いて紹介しました。

02 まずラインを一望 俯瞰してからの 説明は納得感大!

まず製造ラインを俯瞰いただいたのち、若手社員が各工程の詳細をご説明。端々に自信が溢れるプレゼンも相まって理解が進みます。



03 ビジネスホンを 手作業で組み立て 品質が第一

主力製品のビジネスホンは、多くの工程を人の手で組み立てます。ていねいな手作業が品質を支えています。



04 生産技術・品質管理の ノウハウが詰まった 基板製造工程を見学

基板の実装から検査までを一貫して行う工程を見学。長年培ってきた生産技術と品質管理のノウハウが、安定した製品づくりを支えています。



仕事柄工場を見る機会もありますが、こちらでは愛社精神が感じられて教育が行き届いていることがよく伝わってきました(70代・男性) 若い社員の方々が生き生きと働く姿を見て良かったです(60代・女性)



実際に製品づくりに携わられている方が説明してくださり、質問してもお詳しく、製品への愛情をひしひしと感じました(30代・男性) 間近で技術者の方たちの仕事を見ることができて、すごく楽しかったです(30代・女性)

Mariko
Mabuchi馬
渕
磨
理
子Masatoshi
Saito齋
藤
政
利Mitsuhiko
Saijo西
條
光
彦

Post-event discussion | 工場見学会を終えて

株主優待制度導入と工場見学会、 その目的・狙い

株主優待制度の一環として初めて実施された工場見学会を終えて、特別対談を開催しました。本対談には、経済アナリストの馬渕磨理子氏、サクサ(株)代表・齋藤政利、社外取締役・西條光彦が参加。工場見学会当日、株主の皆さまをお迎えしたサクサテクノ(株)代表・矢萩優もリモートで加わり、見学会を振り返りながら、サクサの現在地とその先にある未来を語り合いました。

司会:サクサ(株)管理統括副本部長 兼 総務部長 齋藤太三夫

現場だからこそ感じられた サクサの強み

司会 それでは、工場見学会を終えての率直な感想から伺っていききたいと思います。まずは、今回の取り組みを企画・推進した立場として、齋藤社長からお話をお願いいたします。

齋藤 今回、株主優待の一環として工場見学会を実施しましたが、非常に意義のある取り組みだったと感じています。株主の皆さまに、数字や資料だけでなく実際のものづくりの現場を見ていただけたことは、大きな一歩でした。

西條 メーカーの工場を実際に見る機会は投資家にとって多くありませんし、

事業理解を深めていただくうえでも大きな意味があったと思います。

矢萩 お迎えする現場としては、緊張感もありました。ただ、若手社員が説明役を担い準備を重ねる中で、自分たちの仕事を自らの言葉で伝える意識が強まりました。見学会後は、「自信になった」という声が多く聞かれました。

馬渕 実際に工場を拝見して、皆さんの表情がとても印象に残っています。品質を守ること、ものづくりに真摯に向き合う姿勢に誇りを感じました。

齋藤 現場で働く社員が誇りを持って説明する姿を、株主の皆さまに見てい

ただけたことは、会社としても大きな財産です。工場見学会は、自社の強みを再確認する機会にもなりました。

馬渕 まさに「人」が最大の資産だと、改めて感じました。この経験が次の議論や挑戦につながっていくのですね。



経済環境の変化で高まる ものづくりの価値

司会 続いて、足元の経済環境を踏まえながら、サクサグループのものづくりについてお話を伺っていききたいと思います。まずは馬渕先生から、経済環境の見通しについてお願いいたします。

馬渕 ありがとうございます。今、世界的に見ても経済は大きな転換点にあります。地政学リスクの高まりやサプライチェーンの分断などを背景に、「どこでつくるか」「安定して供給できるか」という点が、これまで以上に重視されるようになってきました。そうした中で、国内に生産拠点をもちものづくりができる企業の価値は、確実に見直されていると感じています。

齋藤 まさにその通りだと思います。当社は国内で生産を行っており、これまではそれが特別な強みとして語られる場面は多くありませんでした。しかし、半導体不足や物流の混乱を経験する中で、国内で安定してつくれることの意味を改めて実感しています。

馬渕 デフレの時代は、とにかくコストを下げるのが重視されてきましたが、今は安さだけでは選ばれません。品質や安定供給、そして信頼性が、企業価値に直結する時代に入っています。その点で、サクサのように現場を持ち長年ものづくりを続けてきた企業は、大きな可能性を持っていると思います。

齋藤 私自身、以前から地政学リスクを意識してきましたが、正直なところ、ここまで現実的な課題として突きつけられるとは思っていませんでした。海外に出ればコストが下がるという時代は終わりつつあり、品質や供給責任を含めて、自分たちでやり切ることの重要性が高まっていると感じています。

馬渕 ものづくりは単なる製造工程ではなく、企業の姿勢そのものだと思います。今の経済環境は、そうした姿勢をしっかりと持っている企業を、きちんと評価する方向に動いているのではないのでしょうか。

齋藤 はい。だからこそ、私たちはこの環境を前向きに捉え、サクサのものづくりの価値を改めて高めていきたいと考えています。

次の成長に向けて、 サクサが描く未来

司会 ここからはサクサグループの今後について伺います。

齋藤 私たちはこれまで、時代の変化に合わせて事業を転換しながら成長してきました。今後についても既存事業を大切にしながら、次の柱を育てていくフェーズに入っていると考えています。重要なのは、短期的な成果を追うのではなく、持続的に価値を生み出せる構造をつくることだと思っています。

西條 社外取締役の立場から見ても、今は非常に重要な局面だと感じています。ガバナンスを効かせながらも、



成長に向けた挑戦をどう後押しするか。経営の取り組みを客観的に見つめ、株主からの期待を意識しながらバランスを取っていくことがとても重要だと考えています。

馬渕 これまでのお話を伺っていて、サクサグループは柔軟な経営ができる企業だと感じました。公衆電話からビジネスホン、そしてセキュリティ分野へと、時代のニーズに応じて事業を広げてこられた歴史があります。次の成長についても、方向性を定めて挑戦していける強さを感じました。

齋藤 ありがとうございます。私たちは、人財や現場の力を生かしながら、新しい価値を生み出していきたいと考えています。そのためにも、株主の皆さまには、短期的な結果だけでなく、取り組みのプロセスにも目を向けていただけるとありがたいです。これからは、これまで進めてきた種まきの成果を着実に形にしていく段階に入ります。

株主の皆さまの期待に応えられるよう、これからも着実に取り組みを進めてまいりたいと思います。





サクサ株式会社

<https://www.saxa.co.jp/>

本レポートでご紹介したツアー・対談の様子を
映像でご覧いただけます。

<https://www.saxa.co.jp/ir/yutai>

